

第一生命経済研レポートテーマ (2006年4～5月)

<p>2006年4月号 (通巻109号)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時評 ・今月の内外景気 ・今月の金融マーケット ・中小企業アイ ・経済トレンド ・けいざい・かわら版 ・よくわかる日本の人口 ・セクター分析 ・よくわかる経済指標 		<p>「日本経済の健全な発展」は担保されるのか～求められる金融政策転換の説明～ 日本経済 ～ポスト量的緩和の金融政策～ 米国経済 ～バーナンキFRB議長は無難な船出～ 日米経済の現状と6ヶ月後の見通し 緊張感高まるグローバルマーケット 円債利回り・ドル/円レートの6ヶ月見通し 経済格差問題を考える 2006・2007年度日米経済見通し 民間シンクタンク・調査機関の経済見通し ～コンセンサスとなったいざなぎ景気超え～ 人口が減少に向かう先進国と増加が続く発展途上国 ～よくわかる日本の人口⑩【世界の人口】～ 産業別利益動向 消費者物価指数</p>
<p>2006年5月号 (通巻110号)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時評 ・今月の内外景気 ・今月の金融マーケット ・中小企業アイ ・経済トレンド ・けいざい・かわら版 ・よくわかる日本の人口 ・内部統制をどう捉えるか ・セクター分析 ・よくわかる経済指標 ・経済振り返り 		<p>株式投資の本質 日本経済 ～視野に入ってきた“いざなぎ超え”～ 米国経済 ～利上げ打ち止めの可能性～ 日米経済の現状と6ヶ月後の見通し 業績？金利？需給？日本株を取り巻く環境 円債利回り・ドル/円レートの6ヶ月見通し 一極集中と経済格差 長期金利の上昇が企業収益に及ぼす影響 ～+1%ポイントの上昇は非金融法人企業の経常利益に▲3.7%の押し下げ圧力～ 人口変動の経済・社会的影響 ～よくわかる日本の人口⑪【まとめ】～ 内部統制は誰もが知っておくべきテーマとなった ～内部統制をどう捉えるか①～ 産業別利益動向 GDP 日本経済振り返り (2005年度)</p>

編集後記

突然だがアイスランドのことをよくご存知だろうか。日本で見る世界地図では英国の左上、北極圏にかかる角に描かれている島国だ。この国の人が北米大陸に最初に到達したヨーロッパ人だという話もある。アイスランド大使館のホームページによると人口は30万人(東京都の中規模の区ぐらい)、面積は30万平方キロメートル余(北海道の3割増し)という大きさである。ここでも火山、そして豊富な温泉の熱利用が進んでいるというのは興味深い。

春も盛りどころ英国の経済紙がこの国に海外資金が流れ込んで、過去三年間に急激な資産価格の上昇を招いたことを紹介していた。株価はおよそ四倍、首都レイキャビクの住宅価格はほぼ二倍になったという。背景にはこの国の通貨アイスランド・クローナが高金利通貨として投資家からの資金を引きつけたことがある。日米欧で低金利が続く環境下、海外から資金調達をしやすくなった地元大手企業グループによって英国の有名小売チェーン買収も活発に行われた。まさに氷の国でホットマネーが勢いよく湯気を立てたようだ。しかし、このところ各国の中央銀行が金融引き締め傾向を強めたことが当地企業による資金調達継続の障害となっているという。資産インフレのもと、金融政策の舵取りなど経済運営に難問が多いことは想像に難くない。

最近、中国人民銀行が対外証券投資を本格的に解禁する報道もあった。対米貿易黒字で流入するドルの還流を促す狙いがあるという。マネーの波が四角い世界地図の東西南北に打ち寄せるさまが目に見えよう。わが国の金融政策の行方もその波のうねり具合を左右するに違いない。

(H. U)